

5. 市場経済

1. 交易・貨幣・市場
2. 交易の起源
3. 貨幣の起源
4. 二つの市場観

1. 交易・貨幣・市場

カール・ポランニーの近代経済学批判

- そうした諸問題は、交易、貨幣、諸市場の統合を分離不可能の者とする伝統的な仮定によって、探究の範囲外に置き去りにされた。交易の見られるところには市場が仮定され、そして貨幣のあるところには交易が仮定され、したがってまた市場が仮定されたのであった。(カール・ポランニー『人間の経済 I』25頁)
- アリストテレスからカール・マルクスにいたるまで、経済上の専門化や分業の展開は、交易や貨幣や市場の発展と伝統的に同じものだとみなされてきた。これらの諸制度は、経済発展のプロセスにおいて、ひとつことの相異なる側面にすぎないと思われてきたのだ。交易は市場における財の移動であり、貨幣は、その移動を容易にする交換手段だというのである。(『人間の経済 I』153－54頁)

2. 交易＝交換の起源

- 略奪と交易(商業)
- ヒックスの商業の起源: 慣習経済 (petit commerce 小商業) と指令経済 (grand commerce 大商業)
- 社会的交換と経済的交換
- ポランニーによる「経済統合」の三類型

社会的交換

互酬 (reciprocity) : 社会的に関係づけられた、対称的で双務的な、ものとサービスの移動

再分配 (redistribution) : 中心に向かい、中心から再び出る、ものとサービスの移動

経済的交換

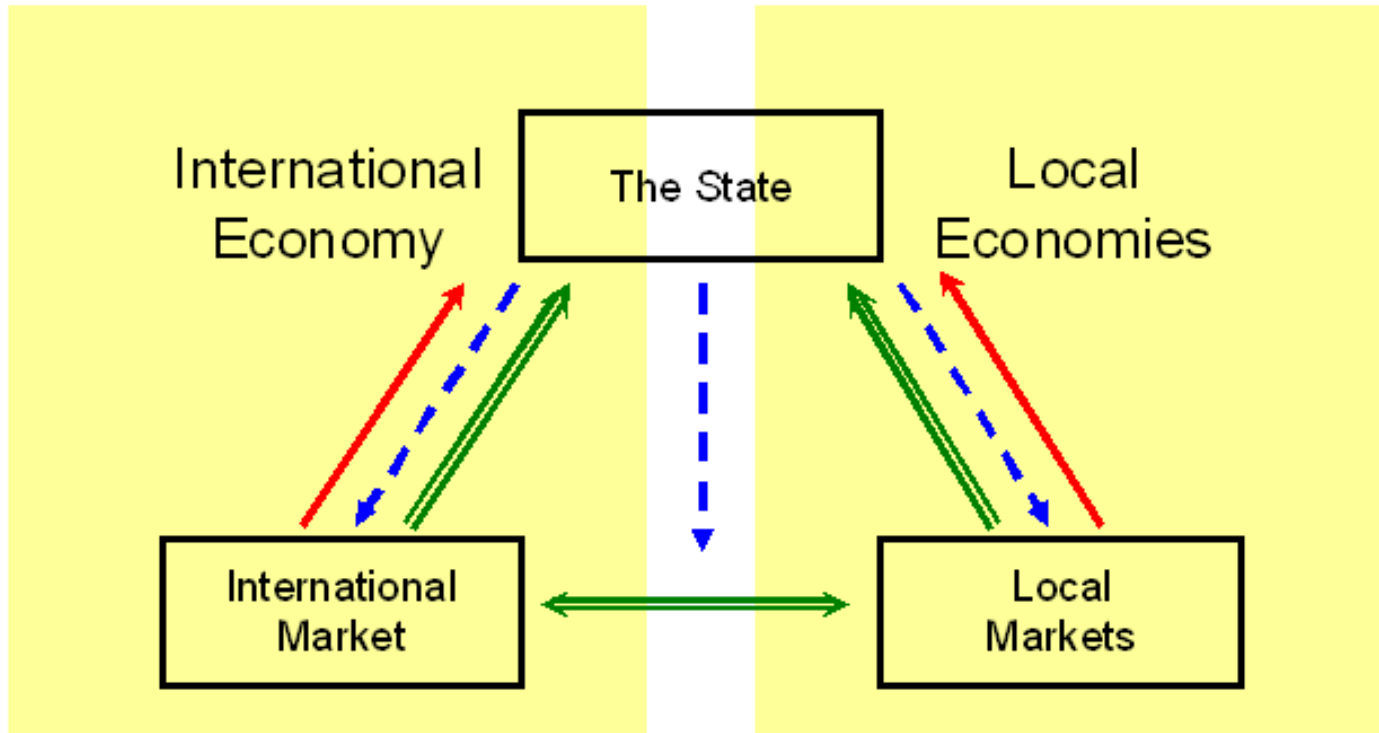
交換 (exchange) : 市場での匿名かつ自発的な、ものとサービスの移動




3. 貨幣の起源

商品説と国定説

市場と国家

Relationship of the State and International and Local Markets



-  Monetary Policy
-  Direct Economic Impact (Seignorage)
-  Indirect Economic Impact (Tax, Volume of Exchange, etc.)

東地中海世界での三つの貨幣流通圏(c.800)



イスラーム貨幣改革前後の金貨(上・表、下・裏)

左 ヘラクレイオス帝(610-41)発行金貨

右 アブドゥルマリク発行金貨(691-2)



4. 二つの市場観

(原洋之介 『開発経済論』岩波書店、『アジアダイナミズムー資本主義のネットワークと発展の地域性』NTT出版1996)

(1) 規範主義的あるいは全体論的な市場観: 現在の経済学の主流派である新古典派理論において前提されている市場観

- 市場はオークショナー(せり人)を介した、完全情報をもつ参加者による取引空間であり、時と場所に関係なく存在する、需要と供給の間で機械的に均衡点としての価格・賃金が定まるプライス・メカニズムである。

(2) 経験主義的あるいは関係論的な市場観: イギリスの古典派とマーシャルの商人・商業論に起源をもち、近年では『経済史の理論』でのヒックスに代表される市場観

- 市場は商人を介した、不完全な情報しかもたぬ参加者による個々の取引の集積であり、需要と供給の均衡点はタイムラグをともなって、歴史的に形成される。